

「平成31年度に実施した仕事」の振返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 2 年 3 月 31 日

事業名称		病児・病後児保育事業費 [病児・病後児保育事業]									
予算科目	款 3	民生費	項 2	児童福祉費	目 2	児童措置費	事業番号	12			
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	保育 課 保育・幼稚園 係					課長名	関田 孝志				
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。							施策番号	2 - 4			
【施策名】 児童福祉の推進							総合計画書 (ページ)	59			
この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。				① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)						
	病児・病後児保育室を利用できる世帯				→ 0~12歳の児童数(4月1日現在)						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]				② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)						
	保護者は育児と仕事の両立、病中の児童は適切な保育を受けられる。				→ 病児・病後児保育室を利用した児童数						
この仕事の目的	③ そのために何をしましたか。				③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)						
	病中の児童が病児・病後児保育室を利用した際、当該病児・病後児保育室の運営者に補助金を交付した。				→ 病児・病後児保育室における補助金交付対象児童数						
指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標				
				平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度目標	令和3年度目標			
	対象指標	①の数値	人	9,886	9,706	9,558					
	成果指標	②の数値	延人	1,183	1,071	953					
	目 標	②の目標値				1,200	1,200				
		目標値設定の考え方									
3 経費	事業費(実績)		円	25,061,015	23,754,230	22,480,230	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,310,000 円 時間単価は、4,300 円 で計算してください。 【算出根拠】平成30年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)				
	財源	一般財源	円	5,617,015	6,694,230	6,344,230					
		特定財源	円	30,678,030	30,448,460	28,824,460					
		(うち受益者負担)	円	0	0	0					
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.2	0.2	0.2					
		所要人数(再任用)	人	0	0	0.0					
		職員人件費(再任用以外)	円	1,650,600	1,648,800	1,662,000					
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0						
事業費+人件費		円	26,711,615	25,403,030	24,142,230						
4 環境変化等	(1) 開始年度		H23 年度								
	(2) 環境の変化		平成27年度から保育園で保育中に児童が熱等で補助者のお迎えが必要になった時に、代わりにお迎えを行い、専用の保育室で保育を行う「お迎えサービス」を実施している。								

事業名称	病児・病後児保育事業費 [病児・病後児保育事業]				
担当部署・課長名	保育	課	保育・幼稚園	係	課長名 関田孝志

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成31年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 利用日当日の登録時間を早めることはできないかという意見があった。				
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）				
	☐ 取り組んだ	取組手法：			
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点				
7 課題	(1)平成31年度に課題とした内容（「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記） 病児・病後児保育の認知が低く、保育園在園世帯でも登録を行わない世帯がいるため、事業の認知度を上げていく。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成31年度に実施したこと。				
	市報・ホームページ等、様々な媒体を活用して、当該事業の周知を行い、登録を促進した。				
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）				
	利用者数の減少に伴い、収益が厳しい状況になっており、事業の継続が危ぶまれている。 引き続き、登録を促進していくとともに、事業継続に必要な費用を市が助成する等対応が必要である。				
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 児童福祉の推進 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある（事業名： ）				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 市報やホームページ等だけでなく、対象となる保護者に直接届く周知を行い、認知度をさらに上げていく。				
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
	保育園や学童クラブを通じて、保護者に周知を行えるよう調整を図る。				